

大正九年

(二月)

一月一日 戊午 木曜 晴朗。

朝四時起。御神前拜、家内一同無恙無事。わか宅にて学校残りの職員、生徒、雑煮を祝ふ、例年の如し。当年ハ新書齋も出来して、快不可言、めでたし。外のもの一同、例によりて大黒天、氷川神社に参詣する。

一月二日 己未 金曜

二日も同しく一同雑煮を祝ふ。賀客続々来る。

一月三日 庚申 土曜

一同雑煮を祝ふ。

一月四日 辛酉 日曜

本日よりハ常の如し。

一月五日 壬戌 月曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

一月六日 癸亥 火曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

一月七日 甲子 水曜 晴。夜、大雨。

朝、七草之粥を祝ふ。甲子二付、予、李子、静子と伝通院の大黒天に参詣して、墓参する。帰途(以下、記述ナシ)。

一月八日 乙丑 木曜 晴朗。

始業式。職員、生徒、講堂に集る。式九時はしまる。校長はしめ君か代唱歌、勅語、畢而校長、主事、学監之はなしある。畢而福釣はしまる。午時前全く畢る。職員たちに茶菓其外おそはを出す。已而本日畢。

\*おそは(お蕎麦)

一月九日 丙寅 金曜 晴。

始業はしまる。

一月十日 丁卯 土曜 晴。  
かさり御鏡等をとつす。

\*てつす(撤す)

一月十一日 戊辰 日曜 晴朗。

李子、朝六時発にて、さくら堀田伯正倫様十年祭に参詣する。予ハ本日不在にして、単司之仕末する、雨宮をたのみて。李子、十時頃帰。

\*さくら(佐倉) \*単司(箆笥) \*仕末(始末)

一月十二日 己巳 月曜 晴、后陰。

はしめて教授する。夕景より雨になる。よく降通したり。

一月十三日 庚午 火曜 晴朗。45(度)。

揮毫ものス。本日、平和大詔煥発。

\*平和大詔煥(平和大詔煥)

一月十四日 辛未 水曜

田中氏約あり。午前より行。結構なる講話ありて拝受する。夕景、帰。

一月十五日 壬申 木曜 晴朗。

朝、めてたく小豆粥を祝ふ。此夜、雨宮をたのみて、京、大坂、神戸え小包ものする。駒込迹見治子来りて、借家とてもなく、困難かきりなくて、とう／＼わか家の間かりを頼まれて承諾ス。

\*間かり(間借)

一月十六日 癸酉 金曜 晴朗。

課業例の如し。また駒込いく子来りて、わが家の間かりを依頼する。

一月十七日 甲戌 土曜 晴朗。42(度)。

山口県都濃郡福川町小学校藤村源兵衛え、不老長寿獼猴桃果実を贈られたるに、返書ス。  
\*不老長寿獼猴桃果実(不老長寿獼猴桃果実)

一月十八日 乙亥 日曜 晴朗。

正午より堀田家に行。初会にて大勢集会ス。五時帰。

一月十九日 丙子 月曜 晴。(衍)  
課業例の如し。

一月二十日 丁丑 火曜 晴。

火曜初稽古する。訃音、一月十九日守安淑子死去、廿二日青松寺にて葬儀執行。

一月二十一日 戊寅 水曜 晴。

来客、角田栄子、中野正子、しはらく咄して夕景帰。布哇ほのるる浅野孝之、秀子え書出ス。遠藤よし為えも。京坂地方え小包もの出ス。

\*布哇(ハワイ) \*ほのるる(ホノルル)

一月二十二日 己卯 木曜 晴。

朝より葉山御用邸千種様え書状及小包物出ス。

一月二十三日 庚辰 金曜 晴、風はけし。

本日は明日の準備にて大く困雑。かたづけもの、いそかし。

\*風はけし(風激し) \*困雑(混雑) \*いそかし(忙し)

一月二十四日 辛巳 土曜 晴。雨。午後一時頃より雨ふり出して、三時頃雨晴たり。

泉会新年会執行。朝十二時より会員続々来集ス。わか玄関より先新記念書斎を見せる為也。塾えの渡り未だ出来せず。本日より渡り初め、それより寄宿舎食堂にて、幕のうち折詰、御菓子碗のあつきを御馳走に、畢而余興、落語二番、百面相、福引済て、四時皆散。また八時頃迄も残る方ありたり。然し無事発会も済てめてたし。

\*あつき(熱き) \*めてたし(目出たし)

一月二十五日 壬午 日曜 晴。

此日、二階の道具すへてを不残下えおろし、それを物置と方々え置直す。夜に至而、治子、雨宮、井上、朝くらの手伝人ありて、漸く方付る。流感にかゝりたる八重、本日死去のよし。

\*朝くら(朝倉) \*方付る(片付る)

一月二十六日 癸未 月曜 晴。

此夜も食堂の道具を方々え置直して、食堂明わたす。此夜、智子さまの奉公人八重の看護婦来りて、種々物語りス。

一月二十七日 甲申 火曜 晴。

火曜稽古する。京都高倉寿子さまえ返書ス。名古屋中村氏、同日比野氏、秋元すわ子、山戸寅之助。

\*名古屋(名古屋)

(二月二十八日、二十九日、記載ナシ)

一月三十日 丁亥 金曜

課業例の如し。

(二月)

二月一日 己丑 日曜 陰。夕方より雨ふり出したり。

迹見のり房家内一同、此方二階と六畳食堂え引移り、朝より荷物はこひ、先々無滞移転いたし候。夕食一統共にいたして、大く賑々しく候。来客、横浜石川細君、秋元松子。

二月二日 庚寅 月曜 雨。昨夕よりの雨、終日ふり通したり。

酒井忠道伯、昨日御逝去、本日李子とりあへず出向たり。書出ス。京姉小路え、葉山姉小路え、滋賀県小川定次郎え、長の県高橋平造え、名古屋日比野え。

\*長の(長野) \*名古屋(名古屋)

二月三日 辛卯 火曜 晴。

火曜稽古する。名古屋日比野え、巖手秋元すわえ、小包にて手本出ス。朝、天気晴朗、霞わたりて春こちする。

\*名古屋(名古屋) \*巖手(岩手) \*春こち(春心地)

二月四日 壬辰 水曜 晴。陰。

来客、増田浪江、小林鐘吉氏、予の談話を聞に來られたり。節分豆まきにて賑々し。塾の職員、井上、朝倉、高田、岡村より謡の稽古願出れて草子洗を口切に稽古する。酒井伯え玉串五円、観世え香料十円。

\*小林鐘吉氏(小林鐘吉氏)

二月五日 癸巳 木曜 陰。

神代鶴子より文着。武田氏え香料十円。訃音、河津暹長男祐孝、去ル三日死去。七日午後二時、谷中坂町玉林寺にて。広島靖子より人參着、直ニ返書ス。訃音、武田信達、来ル六

日午后一時、赤坂台町報土寺にて葬儀執行。

二月六日 甲午 金曜

初午日。課業例の如し。李子、武田氏え悔に行。

二月七日 乙未 土曜 晴。

予、李子ト酒井忠道伯告別式に参る。玉串をさゝけて帰。帰途、武田氏え悔に行、夫より観世元義靈焼香して帰。

(二月八日、九日、記載ナシ)

二月十日 戊戌 火曜

千種典侍さまより黄金あめ三箱着。

二月十一日 己亥 水曜 晴。

祝日。朝九時半、職員、生徒集会。校長、勅語拝読、君か代唱歌、校長及主事講演、畢而式全畢。一同え茶菓、みかん等出ス。予、李子と三時半ヨリ帝劇見物する。山口県藤村氏より青海苔一箱着。

\*みかん (蜜柑)

二月十二日 庚子 木曜 晴。

正午より田中氏え行、日暮帰。

二月十三日 辛丑 金曜 晴。

課業例の如し。

二月十四日 壬寅 土曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

二月十五日 癸卯 日曜 太郎氏送別会、午下一時より、橋岡談交会にて。西村毎。

早起。雪積事五寸計、驚々入たり。本日はまた普選さわぎのしづめの雪也。終日ふり通したり。此雪にて、はし岡え断る。

\*はし岡 (橋岡)

二月十六日 甲辰 月曜

石井初子え、巖手秋元え、名古屋や中村え、大坂沢田え。

\*巖手(岩手) \*名古屋(名古屋)

二月十七日 乙巳 火曜  
火曜之稽古する。

二月十八日 丙午 水曜 陰、雨。午下三時頃より雨にて、五時晴たり。夕陽見事也。  
正午より堀田伯様へ常会ニ参ス。

二月十九日 丁未 木曜 晴。  
訃音、十六日森琴子様逝去、廿日告別式。

二月二十日 戊申 金曜 晴。  
課業、五年生二時間ツ、。李子、森子へ告別式に参拝ス。旧元旦ニ付、朝、藤村氏より贈られたる獼猴桃不老長寿之果を食ス。予、李子と百歳迄の長寿ハ如何。

\*獼猴桃(獼猴桃)

二月二十一日 己酉 土曜 晴。  
広島市国泰寺町木谷真、一行小絹一枚、小包にて出ス。来客、朝鮮西崎久美子、久々にて対面、悦んで昔をかたる。卒業後廿年余となる。横浜中村隆子来る。大阪今宮荻の茶や佐々木政次郎より真綿着。

\*荻の茶や(荻之茶屋)

二月二十二日 庚戌 日曜  
郵送、広島木谷氏画を、日比野ふさえ、中村清子え、秋元すわ子え、辻一郎え。

二月二十三日 辛亥 月曜 陰。  
課業例の如し。田中氏行。車来らず、一時になる。本日わか学校職員、生徒及塾生の一人も流感なし。全く神の御加護なるへしとて、本日田中家にて右の御礼の読経なしたり。此時より雪ふり出して、帰る時止。此夜大雪、五寸計。

二月二十四日 壬子 火曜  
朝、雪かき、頭藤も来りて掃除する。火曜稽古する。

二月二十五日 癸丑 水曜 晴。  
石井初、中村清え書をよす。

(二月二十六日、記載ナシ)

二月二十七日 乙卯 金曜 晴。  
課業例の如し。来客、田島春、土井田鶴。謡稽古する。

二月二十八日 丙辰 土曜 雪、朝より飛雪粉々として、夜益盛也。  
鈴木八郎、辻寿美結婚披露会、築地精養軒え。午下四時より跡をし付にて、精養軒に行。  
九時帰。

\*跡をし付 (跡押し付)

二月二十九日 丁巳 日曜 晴。

朝の雪景色絶景、五時計。雪かき二人来る。

\*五時計 (五時計)

(三月)

三月一日 戊午 月曜 晴。

課業例の如し。試験二付、二時間ツ、教授ス。鈴木八郎、すみ子新夫婦御礼に来る。

三月二日 己未 火曜 晴。夜、雨。

火曜稽古する。来客、善光寺住職。香港津田栄子より、文、及大写真、及は書等着。

\*は書 (端書)

三月三日 庚申 水曜 雨。

上巳節句二付、雛祭する。夜、寄宿舎食堂にて雛の饗応あり、賑々しく候。後、謡稽古する。神戸佐々木より鯛の味噌漬一桶着。

三月四日 辛酉 木曜 陰。

書をよす、香港津田氏、神戸佐々木静え。紀州土井八郎兵衛よりみかん着。

\*みかん (蜜柑)

(三月五日〜八日、記載ナシ)

三月九日 丙寅 火曜 晴。

火曜稽古する。

(三月十日〜十二日、記載ナシ)

三月十三日 庚午 土曜 陰。

(コノ日、記事ナシ)

三月十四日 辛未 日曜 雨。

終日直しものす。

三月十五日 壬申 月曜 雨。

終日直しものにていそかし。来客、井上角太郎細君と雪子、此度、若山源吉氏之悴と結婚之齊ひて、十九日、其式を挙ると云、暇乞に来られたり。

\*いそかし (忙し)

三月十六日 癸酉 火曜 晴。

珍しく空晴たり。春心地す。茂木栄子え病氣見舞出ス。火曜稽古する。書をよす。角田氏、浦四三子、日比のふさえ、秋元すわえ、神戸浅井儀子え、名古屋 (屋) 中村清え、大口氏え。

\*日比のふさ (日比野ふさ) \*名古屋 (名古屋)

(三月十七日〜二十五日、記載ナシ)

三月二十六日 癸未 金曜 陰。

明日之準備にいそかし。此日四時、品川妙国寺本多日生大僧照御来臨にて、始て拝謁して、法華経の真髓を懇々と御咄し有て、骨髓に徹して有かたしとも有かたし。安心々々。後、御読経下されて、六時御帰りに相成たり。五島善子さまの御紹介にて。

耳に清し夜は明んとすほと々きす

\*本多日生大僧照 (本多日生大僧正)

三月二十七日 甲申 土曜 晴。

天晴朗、近頃の第一の天気也。午後一時半、職員、生徒着席、君か代唱歌、校長勅語拝読、卒業証書授与式。五年生五ヶ年皆勤生、拾壺名ありて珍らし。来賓、村井弦斎氏、中川建治郎氏、講話アリて、結構也。畢而来賓に茶菓を出ス。後、卒業生、職員一同に、すもし、菓子を出ス。五時過全く畢。

三月二十八日 乙酉 日曜 晴。

卒業生謝恩会開催、午前十時より塾の食堂にて。職員一同着席。五年生の余興数番、書画  
教場にて午餐、すもし、菓子等、畢而午後の余興、五時過畢。五島善子さま、今日迄滞在、  
此夜五時の汽車にて帰島せられたり。

三月二十九日 丙戌 月曜 雨。

午後一時より浅草等一閣、地明会に参る。本多師との約束にて、先、御読経、後、二階に  
て法席一座聴聞して帰。地明婦人会に入会ス。

三月三十日 丁亥 火曜 雨。

書至、本多僧正より、三十一日より出法戦、各地にて、四月廿五日戯戦すと云。

(三月三十一日、記載ナシ)

(四月)

四月一日 己丑 木曜 晴朗。

始て天晴わたりて、春心地ス。駿ヶ台田村氏に行。高子と成瀬達と婚約齊て、十六日結婚  
披露会ニ付、御祝品料紙、文庫ト松魚を持参ス。午食を饗せられて後、閑院宮え参る。御  
息所に拜謁、様々御咄し申上で、明日、両殿下、京都え御出発あらせられる。村雲日勝尼  
公の御会葬のため也。李子外子供三人連て、寿子、葉山え送る。夜七時頃帰。夜に入て雨  
ふる。本日より電話に二銭ツ、出ス事。

四月二日 庚寅 金曜 雨。

来客、高木貞子、美濃部姑子、堀純一妻、鈴木喜代其母と。書至、子爵安藤様より、奥方  
三月三十日御男子御分婉にて信和と御命名之御吹聴ありたり。夜、斎藤仁子、雨宮と来り  
て十時二帰。

四月三日 辛卯 土曜 雨。

終日揮毫ものス。

四月四日 壬辰 日曜 雨。

有約、梅若に能を見る。朝より、予、李子と同行、観世鉄之丞催能。あし刈、男舞之処よ  
りみる。万三郎、六郎 蝉丸素謡、是かきゝもの也。李子ハ午後欠席。万三郎 卒都婆、六郎 安  
宅をみて帰。白石きく子、尾崎八重子よの世話してくれられたり。安達を残して六時過帰。

\*あし刈 (蘆刈) \*よ (予)

四月五日 癸巳 月曜 雨。

朝八時より新入生のみ入学式あり。校長、学監之講演ありて、式全畢。来客、指田八重子、母と御礼に。

書至、広島靖子より。

四月六日 甲午 火曜 雨。

朝八時より始業式執行。校長、学監講演、叮嚀に昼迄に相濟たり。世のさわきを天のなせる静めの雨と仰かれたり。

たゞならぬ風も静に春雨の

\*さわき(騒ぎ)

四月七日 乙未 水曜 晴。陰晴定まらず。

けふハ晴らしく。始て日光を拝む、有かたし。朝より揮毫ものス。来客、市の沢母と娘、河田母と娘。晩、謡稽古する。李子、万里家へ行、夜九時帰。

\*市の沢(市野沢)

四月八日 丙申 木曜 晴。

朝九時頃より高田馬場津田氏へ行。一月よりはしめてにて、ゆる／＼と咄して、午饗に逢て、一時帰。中野跡見へ行、久々にてゆる／＼咄して帰、四時。道すからの桜花、一、二分かた咲かけたり。

四月九日 丁酉 金曜 晴。

朝九時より五年生教授はしむ。本日ハ予の誕辰ニ付、朝より両親の霊をまつる。中野跡見四人前、高田馬場津田七人前、高はし弘え三人前、御すもし、家内中え蒸菓子を贈る。来客、

さゝ木豊子娘。

\*高はし弘(高橋弘) \*さゝ木豊子(佐々木豊子)

四月十日 戊戌 土曜 晴。

午下一時より、予、李と同行、永田町村井吉兵衛氏新築開園遊会。貴顕紳士、夫人、令嬢、一千五百人と云。先、座敷より飾付、万端美尽し数奇を極めたり。余興、狂言式番、帝劇女優元禄花見踊、太神楽、西洋奇術等也。庭園の広き、桜花爛漫、実に見頃なり。後、食堂にて洋食、畢而孝子病を問ふ。よほとよく成られたり。五時畢る。閑院宮え参り、御庭の花を拝見して帰。岩田氏来る。

\*桜花爛漫(桜花爛漫)

四月十一日 己亥 日曜 晴。  
朝より揮毫ものス。来客、正子、栄子、弘孝。岩田氏来りて弘孝を見る。升本喜兵衛氏より代理人来りて、学校へ金三百円寄附ありたり。李子、朝より鎌倉地方へ行。みとり会なから欠席ス。

四月十二日 庚子 月曜 晴。

腸をいためて臥。来客、葉室伯、松浦勇氏来る。  
市原たよ女掛幅、

梅に月人待ふりに戸もさゝす 寿八十六 多代  
たにさく、

奥深う鈴の音もるゝ紅葉哉

うらゝかにうた聞えけり真柴莉 八十九 たよ女

\*たにさく(短冊)

四月十三日 辛丑 火曜 晴。 若菜会、午前十一時より。

火曜稽古はしむ。新入八人。書をよす、神戸磯野儀子え手本と文と、広島松島え。

(四月十四日〜二十六日、記載ナシ)

四月二十七日 乙卯 火曜 雨。

火曜稽古する。太田富枝え白紹縮緬一反、松魚券、結婚祝として贈る。

四月二十八日 丙辰 水曜 快晴。

書をよす、本多日生殿え。午後四時より太田富江、伊丹鉄太郎と結婚披露会ニ付、予、李子と出席。余興、貞山講演、燕枝落語、吉住小三郎長唄、翁三番叟。食事、七時済て帰。此夜、高はし弘来る。

\*高はし弘(高橋弘)

四月二十九日 丁巳 木曜 晴。

靖国神社大祭ニ付、休業。正午早々、北条子を問ふ。彝子さまニ御目ニかゝりて種々御咄しを聞て帰。来客、津田栄子。電車過半動く。

四月三十日 戊午 金曜 晴。

本日より電車動き出したり。労働者の理由なしに罷業して人民困らせたり。課業例の如し。金曜の稽古する。

(五月)

五月一日 己未 土曜 雨。

(コノ日、記事ナシ)

(五月二日～五月三十日、記載ナシ)

(六月)

(六月一日～六月三十一日、記載ナシ)

(七月)

(七月一日～七月十六日、記載ナシ)

七月十七日 丙子 土曜 晴。92(度)。

朝九時より赤坂茂木氏を問ふ。蝶子の病、別に替りもなき様子なれど、先元気に咄しなとして、大ゐに心身の慰安をのへて帰。この夕、御宝前に観世音を移転安置して、普門品を読経す。此内不計、真金色の如来の出頭を拜む。御座像蓮台に坐し給へり。左の御手に宝珠を、右の御手を上させられ、光明かくやくと申て、実に明々光々たり。おもはず感涙に声を上て、なき臥したり。始而仏身のあらはれを拝み、歓喜踊躍、手の舞足のふむ処をしらす。

\*光明かくやく(光明赫奕)

七月十八日 丁丑 日曜 晴。90(度)。

朝の御勤にも昨夜の通、此朝立像也。難有しとも有かたし。わか臭き頭を法華経に奉りて、金色の如来と成る、感涙の外無之候。正午より堀田家二集る。

七月十九日 戊寅 月曜 晴。

十九日午前七時半、御出門、皇太子殿下、選書展覧会え行啓二付、奉迎出頭之事。予、七時半出門、上野撰書会二行。会長松浦伯、またの氏、長谷様、其外も。殿下には隣の南米博覧会御覧にて、八時半、選書会え行啓、書画御覧にて御還啓相成。其跡にて揮毫を見て七歳より十三歳迄の児童也、九時過帰。先月バザにて大ゐに活動之方々相集りて、決算済て、校友

会より学校潤益金を寄附せられたり。来客、京都長谷川歌子、三十年前之生徒、久々にて面会ス。成富信敬氏来る。

七月二十日 己卯 火曜 晴。  
朝より机の上の始末する。方々え返書出ス。

七月二十一日 庚辰 水曜 晴。90(度)。  
朝、宮内省御内儀、千種典侍様え暑中見出ス。午下、北条様え暑中に参りて帰。夜、棚はしあや子来る。

\*暑中見(暑中見舞) \*棚はしあや子(棚橋あや子)

七月二十二日 辛巳 木曜 晴。

汲泉六十号落製、直二皇后陛下ニ献上ス、千種、正親町さまえも。正午一時迄ニ大驟雨、雷を交て。暑氣一洗す。心地よし。直に晴わたりて跡かたもなし。夕、月清くすか／＼し。  
(図入る)

七月二十三日 壬午 金曜

此夜、塾生送別会。食堂に集ル。種々の趣工ありて、めて度済。

\*趣工(趣向) \*めて度(目出度)

七月二十四日 癸未 土曜

朝八時、職員、生徒一同、講堂に参集。終業式事ありて、一同退散。塾生も是より帰省する。

(七月二十五日、二十六日、記載ナシ)

七月二十七日 丙戌 火曜

京都、大坂、神戸、広島え小包物十軒え出ス。此夜より大腸カタルにて困雑ス。

\*困雑(困難)

七月二十八日 丁亥 水曜

李子ハ残りの職員、子供等連れて、富士登山の準備なる。予の病になやむをみて、登山中止する。手柄氏、井深氏、診察を乞ふ。

七月二十九日 戊子 木曜

此日も臥蓐、いたみやます。

(七月三十日、三十一日、記載ナシ)

(八月)

八月一日 辛卯 日曜  
先、床払してみる。

八月二日 壬辰 月曜  
床払して元にくする。  
\*ふくする(復する)

八月三日 癸巳 火曜  
朝の務畢る。大蔵経要義にかゝる。

八月四日 甲午 水曜  
朝の勤例の如し。

(八月五日、記載ナシ)

八月六日 丙申 金曜  
朝の勤例の如し。本多日生師え書をよす。暑中見舞、素麴を出す。

八月七日 丁酉 土曜 雨。  
朝の務も済て、例の大蔵経要義、勝鬘夫人一乗章を拝読、ぬき書もしたり。夫人之生命財産を惜まず、此勇氣には驚たんの外なく候。雨、直ニ驟雨の如く、時々盆をかへす如くである。時木太刀来る。午睡によむ。面白し。方々え書をよす。庭蘭花二株見えて嬉し。

\*ぬき書(抜き書) \*驚たん(驚嘆) \*盆をかへす(盆を覆す)

八月八日 戊戌 日曜 雨。  
例のつとめも済て、大蔵経要義、自性清浄章第十三迄拝読ス。昨夜より今朝にかけ降雨甚し。来客、斎藤仁子、午前より午後五時迄、咄しに身が入りたり。

八月九日 己亥 月曜 雨。  
朝雨、昨夜よりつゞく。朝のつとめ済て、勝鬘経終迄拝読す。天晴れたり。来客、津田栄

子、跡見玉枝、河島八枝子。

八月十日 庚子 火曜 雨。

朝の勤め畢る。大藏經要義一卷読み畢る。来客（以下、記述ナシ）。

八月十一日 辛丑 水曜

朝のつとめ例の如し。八時半より品川妙国寺本多師を訪ふ。昨夜御帰京に相成て拝晤ス。種々法幢の咄しも有て、大藏經一卷拝読畢而返上ス。法幢一冊を予に贈らる。それより下渋谷高橋氏を問ふ。細君、子供に逢ひ、この十五日、捨六君の一週忌ニ付、備ものする。昼飯の馳走に逢て、三時頃帰。朝雨、已而晴。玉枝より依頼、渋沢男への紹介状書ス。

\*一週忌（二週忌） \*備もの（供もの）

八月十二日 壬寅 木曜 晴。

朝のつとめ例の如し。法幢を読みはしむ。此日、珍ら敷雨降らず。可喜。書をより、神戸若山雪子、尾鷲土井田鶴子え。

\*書をより（書をよす）

八月十三日 癸卯 金曜 雨。

朝のつとめ済て、法華經卷一より校正にかゝる。一卷すむ。米国宮原重次郎より書至。又々豪雨ふりて、門前急流、川をなしたり。夕景より門馬氏其娘と、内海氏来られたり。しはらく遊び、帰る。豪雨驚きたり。

八月十四日 甲辰 土曜 雨。

朝のつとめ済て、法華經二卷校正する。又雨ふる。

八月十五日 乙巳 日曜 雨。高橋故真道院殿三回忌、同日午後四時、青山玉窓寺ニテ法要。

十五日の御宝前御備もの、読經濟て、法華經三卷校正ス。午下三時より玉窓寺参詣す、李子名代。

\*備もの（供もの）

八月十六日 丙午 月曜 晴。

朝のつとめ済て、八時より、予、李子と谷中全正庵え参詣する。浦艶子一週忌ニ付、墓前え花を供ス。隣の迹見光重え食助膳部一揃を贈ル。三日月を拜む。

\*谷中全正庵（谷中全生庵） \*一週忌（二週忌） \*食助膳部（食筋膳部）

八月十七日 丁未 火曜 晴。  
朝のつとめ済で、法華経四巻校正ス。夕景、浦月子来。

八月十八日 戊申 水曜 晴。  
朝の勤行済で、法華経五巻校正ス。午下二時、驟雨あり。

八月十九日 己酉 木曜 雨。  
庭の掃除して、朝の勤行済。又大豪雨あり。九州地方大水かいあり。四時頃より、予、観世に写真持参する。元滋不在、国女に逢而帰。法華経六巻校正ス。  
\*水かい〔水害〕

八月二十日 庚戌 金曜 雨。  
朝、勤行済で、法華経七巻校正ス。来客、大東氏。此朝、新築諸道冥移転ス。観世え川島八重子の義二付、書をよす。

\*新築諸道冥〔新築諸道具〕 \*義〔儀〕

八月二十一日 辛亥 土曜 雨。  
庭の掃除して、朝の勤行済。法華経八巻校正済。斎藤菊寿氏、大東氏来る。跡見玉枝も夜、雨甚し。  
左官今日より。

八月二十二日 壬子 日曜 雨。  
雨。朝八時より高田馬場津田氏を問ふ。みな岡山より帰りて一同無事。二時頃帰。新築壁ぬり替出来ス。

八月二十三日 癸丑 月曜 晴。  
朝、御勤済で、三部経校生にかゝる。来客、蒲生祐之助母と細君と、妙子の縁談二付、返事に来る。斎藤菊寿氏より鈴虫五疋、昨午かい育たるのにて、よく鳴候也。

\*三部経校生〔三部経校正〕 \*かい育たる〔飼い育たる〕

八月二十四日 甲寅 火曜 晴。  
朝、庭掃除済で、勤行も済、三経にかゝる。酒井忠克伯、自動車にて御迎に來られ、李子、静、広はしの三人連にて、房州え八時半汽車にて行。来客、内海氏、午下、雨宮来りて謡曲四番うたふて帰。菊寿氏来る。  
本日より縁普請にかゝる。

\*広はし〔広橋〕

八月二十五日 乙卯 水曜 晴。  
朝、庭掃除。御宝前勤行済て、三経校正する。来客、狭間光江父光太氏、面会ス。

八月二十六日 丙辰 木曜 晴。  
朝、清め済て、御宝前勤行。三経校正。

八月二十七日 丁巳 金曜 晴。  
朝、清め済て、御宝前勤行す。北条子を問て、暫時にして帰。帰途、玉川堂ニ寄、買物して、新田氏を問て帰。

八月二十八日 戊午 土曜 雨。  
朝、清め済て、八時より車にて中野跡見え行。午下四時過より帰。朝十時頃より雨甚し。已而霽。李子一行、九時両国着。十時過、一同無事着。雨甚し。十二時比みな臥。深更、月清く十五夜にて、起て月をみる。

八月二十九日 己未 日曜 晴。  
朝、清め済て、三経校正。

八月三十日 庚申 月曜 八<sup>2</sup>(82)(度)。あつさたえかたし。  
朝、清め済て、三経校正する。

八月三十一日 辛酉 火曜 晴。あつし。  
朝、清めして、御宝前例の如し。三経校正畢。来客、中村安代。夏のもの虫ぼしする。

(九月)

九月一日 壬戌 水曜 晴。  
朝、清めして、御宝前例の如し。あわせの虫ほしする。二百十日、風もなく暑さは表に八十五度、たえかたし。本多日生師え統地書を出す。

\*あわせ(一拾)

九月二日 癸亥 木曜 雨。  
朝、清めして、御宝前例の如し。本日より嘆徳文にかゝる。号外、大阪梅田駅大火。

九月三日 甲子 金曜 雨。

朝、清めして、御宝前例の如し。嘆徳文かゝる。村井孝子、昨朝死去のよし。此朝御悔二行。本多師より書至。

九月四日 乙丑 土曜 雨。 大強雨、可驚。

朝、清めして、御宝前例の如し。嘆徳文ニ文かゝる。森氏より招待ニより、午下六時半より有楽座に行、雨をおかして。此座、帝劇のもちに成りたるとて、初舞台なるに、この妹武者小路氏作、見るへきものなし。役者芸の所作なくて役者も見物人も見るカチがない。

\*この妹（その妹）　　\*カチ（価値）

九月五日 丙寅 日曜 晴。

朝の勤め例の如し。嘆徳文書く。午下三時頃より村井氏え行、明日の事相談する。五時頃帰。

九月六日 丁卯 月曜 晴。

朝の勤行済で、始業式執行。職員、生徒一同着席、余挨拶、済で、李子之演舌、主事、学幹之咄しも有て、無事相済。九時より村井氏葬儀に会ス。出棺見送りて帰。李子ハ総持寺えも行て、夜七時頃帰。

九月七日 戊辰 火曜 晴。

朝、清め、御宝前勤行、済で、嘆徳文を書く。

九月八日 己巳 水曜 晴。

朝、清めして、御宝前勤行、畢而嘆徳文かく。

李子、山根氏、美濃部え、

緋紋縮緬一反、松魚一箱、山根え

雲はんに銀色紙蓬萊山之図、松魚一箱、美の部え

結婚祝もの。

夕景、岩田氏来る。津田栄子、弘孝も。

\*雲はん（雲版）　　\*美の部（美濃部）

九月九日 庚午 木曜 晴。

朝、清め済で、御宝前勤行もすみ、嘆徳文揮毫する。本多日生師より使にて、紕地額面安祥堂、靈秀山荘、御揮毫下された。外に大蔵経二卷、思想問題の帰結と法華経の新著と下された。

九月十日 辛未 金曜 晴。午下より雨、さむくなる。

朝、清め及朝の勤行済て、嘆徳文揮毫する。本日より学校出勤ス。夕景より斎藤仁子、嘉山梅子来る。中野より泰も。土神祭礼ながら本年ハかげ祭りにて提灯も出さぬと也。

\*かげ祭り(陰祭り)

九月十一日 壬申 土曜 64(度)。 児玉八郎氏と山根須磨子結婚式、華族会館ニテ午後六時。

朝の勤行済て、嘆徳文揮毫ス。寒くてねるに裕、被風と云、急寒也。午下一時より智明会二行、四時帰。六時より、予、李子と華族会館ニ集ル。此席には古き知記の方々に逢て嬉し。園遊の落語二番、畢而食堂開ケ、賑々敷披露会も済。夕照実に奇麗、光明雲の色彩、珍らしかりし。

\*ねる(ネル) \*知記(知己) \*園遊(円遊)

九月十二日 癸酉 日曜 晴。70(度)。

朝の勤行済て、嘆徳文書写し終る。正午より田中氏を問ふ。又、綾小路子にはや子さま病を訪ふ。肝臓、タン石といふ。臥蓐せられ、此病状如何とあんしられる。暫時にして帰。

\*タン石(胆石) \*あんし(案じ)

九月十三日 甲戌 月曜 晴。

朝清めして、御宝前朝勤行する。課業例の如し。来客、神代鶴子 昼飯を共にす、斎藤仁子、美濃部俊子。大蔵経要義第卷二にかゝる。

\*大蔵経要義第卷二(大蔵経要義卷第二)

九月十四日 乙亥 火曜 陰。三日月雲かゝる。

朝、清めして、勤行済て、火曜稽古、三人計稽古する。愈廿一日より稽古はしめのはづ也。

午前より約の如く神代鶴子、嘉山梅子、横田縫子、酒井喜美子、久々の会合にて、持寄馳走にて昼飯も会食 中野寿子も、夕景まで面白く談話に時を移したり。七時頃散会ス。予、風邪の気味にて早く就枕ス。

九月十五日 丙子 水曜 雨。雨甚し。

朝、勤行済。午下、予、李子と四時半より帝国ホテルに行。大山松次郎と美野部俊子との結婚披露会に招待せらる。立派なる招待ぶり也。貞山ノ講談、宝生家元笠の段、半能長ノ弁慶牛若。

\*美野部(美濃部)

九月十六日 丁丑 木曜 津田氏より招待にて帝劇に行。

朝、勤行済て、大蔵経拝読。午下四時より、予、李、鶴子と帝劇に行。中野より正子、寿子も、津田夫婦にて。西行と静の所感、薔薇の答、明暗録、面白く見たり。

九月十七日 戊寅 金曜 晴。

朝の勤行済て、本日より学校教授時間、八時より午後三時迄。課業畢。

九月十八日 己卯 土曜 晴。 堀田氏常集会。

昨夜、雨。朝、勤行畢る。大蔵経拝読。正午より堀田伯二集会ス。四時過帰。帰途、本郷眼鏡屋二行、逡物して河村銭屋氏に神代を問ふ。二人共不在にて不逢而帰。

\*河村銭屋（河村鉄也）

九月十九日 庚辰 日曜 晴。

朝清め済て、勤行する。来客、今川小路玉枝。中野正子、神代夫婦、河村鉄也氏と来る。四時半より嘉山梅子、鶴子、予、李子、自動車にて如約、築地新喜樂へ行。横田千之助御夫婦の招待也。橋本太吉、宮原六之介、鈴木氏、山口縫子、大々鄭重なるおもてなしに驚き入たり。余興教番、みな名人揃、踊、講談、円左落語、義太夫等にて。料理等ハみな珍味を究む。余談面白くして帰るをしらず。九時、自動車にて帰。此時雨ふる。

\*究む（極む） \*しらず（知らず）

九月二十日 辛巳 月曜 彼岸の入り。晴。

朝、勤行すむ。課業例の如し。大蔵経拝読。

九月二十一日 壬午 火曜 晴。

朝、清めして、勤行済て、火曜稽古はしめする。

九月二十二日 癸未 水曜 晴。

朝、清めして、秋季皇霊祭引上て、本日祖先祭執行。晚餐ちらし寿しを拵て、一同会食す。神代夫婦、朝八時半、汽車にて帰、送る。久米民十郎渡米を送る。

九月二十三日 甲申 木曜 晴。

朝、清めして、勤行済て、九段能楽堂二行。予、棚はし、玉枝、雨宮を誘ふ。感化院慈善会、植村氏より招待によりて、五番共よきものゝみにて、終日面白く樂し（み）たり。

\*棚はし（棚橋）

九月二十四日 乙酉 金曜 晴。

朝、清めして、勤行する。課業例の如し。津田夫婦、子供三人を連れて、香港へ行。大蔵経

拝読。

九月二十五日 丙戌 土曜 少雨。

朝の勤行済て、大蔵経拝読。

九月二十六日 丁亥 日曜 晴。十五夜、無月。雨なく曇天。

朝、清めして、勤行済て、大蔵経拝読。午下早々、村井氏を訪ふ。閑院宮に詣し、御息所、拝謁。久々御咄し申上候。夫より東伏見宮様え参り、御息所様ニ拝謁して、種々御咄し申上て帰。此朝、墓参する。来客、佐々木信綱氏。

九月二十七日 戊子 月曜 晴。

朝、清めして、勤行済て、課業如例、十一時畢。夫より南明倶楽部にて唯信会百会祝日ニ会ス。正午、余興みな面白し。半日の楽しみを得て、五時帰。

九月二十八日 己丑 火曜 晴。

朝、勤行済て、大蔵経拝読。火曜稽古する。

九月二十九日 庚寅 水曜 雨。

朝、勤行済て、大蔵経拝読ス。

九月三十日 辛卯 木曜 雨。

朝、勤行済て、大蔵経拝読ス。朝よりも雨しきにふりつくく。七時比、区役所より今夜一時二時頃洪水キケン也、用意する様にも申来ル。もはや其準備怠りなく、物置から不残畳も上げて、十一時悉皆出来上り、予ハ一心に水の愁なからん様にも天地の神に祈る。其御加護いちしるしく、十二時には水勿に引退して雨も止たり。有難き事限りなし。この雨の大ぬに幸たらんと思ふ。国勢調査も程よく済たらんと思ふ。

\*雨しき(雨しきり) \*ふりつくく(ふりつくく) \*キケン(危険) \*勿に(忽に)

(十月)

十月一日 壬辰 金曜 晴。

午前〇時にたき出しお結ひをたへて、先ニ引水をみて歓喜限りなし。朝、御札の読経する。畳や、人足を集めて、元通りにかた付る。一日かゝり也。

\*畳や(畳屋)

十月二日 癸巳 土曜 晴。  
朝、勤行済で、中島氏の倫理を聞く。大蔵経拝読ス。来客、鳥尾千世子。

十月三日 甲午 日曜 晴。

朝、勤行済で、佐々木氏へ行。不在にて、夫より棚はし氏を訪ふ。絢子、一郎氏、久々にて面会、暫時にして帰。本日は畳をあげねたはつして濁泥を取のけ大掃除、石炭をまきて清める。人足四人、終日にて相済。大蔵経三巻読畢。

\*棚はし氏 (棚橋氏) ー \*あけ (上げ) ー \*ねたはつして (根太はつして) ー

十月四日 乙未 月曜 晴。

朝、勤行済で、課業例の如し。安祥堂、始て畳しけ、元の通りになる。来客、岩田氏。夜に入て雨ふり出したる。十時、突然雷鳴落雷にて火事になる。本郷六丁目と云。又雨甚し。三十日の二ノ舞かと思ふ。十二時頃、雨も止みたり。

\*畳しけ (畳敷け) ー

十月五日 丙申 火曜 晴。

朝、勤行済で、火曜稽古する。来客、宮内氏。日曜学校開会式最中、全部焼失。天の御怒りと思ふ。

十月六日 丁酉 水曜 晴。

朝、勤行済で、揮毫ものス。来客、観世お国、予て元滋との縁談之義二付、愈もらい請度との返事申来りたり。暫く咄して帰。

十月七日 戊戌 木曜 雨。

朝、勤行済で、揮毫ものス。来客、葉室伯、夕餐を共にす。書至、松島靖子より。明治神宮奉祭式二付、献詠、光。来一月御勅題、社頭暁。

十月八日 己亥 金曜 晴。

朝、清めして、朝勤行済で、課業例の如し。

十月九日 庚子 土曜 晴。 秋元八重子命一週忌墓前祭、午下式時。

朝、清めすまして、朝の勤行奉仕ス。課業例の如し。書をよす、義士会え、美尾のえ、松島靖子え。午下早々、予、李子と谷中墓地え、秋元八重子命の一周忌相当二付参拝して、予ハ地明会ニ会ス。本多師の講話を聴聞して感に入る。大蔵経三、四、二巻を拝借して帰。秋元墓前に榊一对。

\*一週忌(二週忌) \*美尾の(美尾野)

十月十日 辛丑 日曜 晴。

朝、清めして、朝勤行奉仕して、来客、井上角五郎氏、浦四三、外にも。午下早々、村井氏を問ふ。吉兵衛氏に逢て少女会の寄附を依頼す。其詮なし。帰途、宮内大臣を問ふ。不在にて不逢。新田氏を訪ふ。河島八枝子の縁談二付、相談して帰る。房州通高来る。中野より正子来る。綾小路家政さま、近辺の御自分の地処え行て発病、大変。

\*宮内大臣(宮内大臣)

十月十一日 壬寅 月曜 晴。

朝、清め、勤行奉仕ス。課業例の如し。此朝、井深氏をたのみて、家政さま御病を問はしめたり。夜に入て其病状をかたられ、先々よきに趣かれて、よく御咄しもなされ、先々よく結果にて安心す。大蔵経三巻拝読ス。来客、万里伯。

\*趣かれ(赴かれ)

十月十二日 癸卯 火曜 陰。

朝、清め、勤行済て、火曜稽古する。正午より田中氏え行、夫より綾小路農子さまを問ふ。けふハ石も出た跡にて、大ぬに心よく、床上に坐して種々物語り。師前さまも御出にて、家政さまの御病状も承り、大ぬに命ひろひしたと悦ひ居られたり。夕飯をよばれて帰。大蔵経三、拝読。

\*けふ(今日) \*命ひろひ(命拾ひ)

十月十三日 甲辰 水曜 雨。

朝の勤行奉仕して、大蔵経三巻にかゝる。又々昨夜、綾小路子病変きたる。井深氏より様体を聞く。昨夜ハ上下より血出てシヤクリひどく、昨夜ハ其まゝにかと思ひたりと。其時出血はとまりたりと云。

\*様体(容体)

十月十四日 乙巳 木曜 晴。

朝、庭清めも済、勤行ス。佐々木信綱氏を問て帰。午下、揮毫ものス。

十月十五日 丙午 金曜 晴。

朝、庭清めも済、勤行奉仕ス。課業例の如し。

十月十六日 丁未 土曜 晴。

朝の勤行済て、準備にかゝる。遠足会、中天(央)停車場、職員、生徒集会、七時五十

分發汽車にて、天晴朗心地よし。鎌倉にて下車、一同歩行、よハ車にて厨子駅ニ安藤氏に  
行。別荘ながら家屋も立派、庭中も広く、実に結構ニテ、昼食済て、海岸へ行。浪切不動  
え参詣する。みな海ニは入、大く楽しみにて、三時頃安藤氏誥別して、帰路に厨子駅よ  
り汽車にて中天駅五時着。一同無事帰着する。

\*中天停車場(中央停車場) \*よ(予) \*厨子(逗子) \*厨子(逗子) \*  
中天駅(中央駅)

十月十七日 戊申 日曜 晴。

朝の勤行も済て、予、李子、すみ子、八重子の四人連、酒井伯より自動車御廻しにて、八  
時半より梅若別会能をみる。織雄の道成寺、鐘入迄見て帰。高橋弘夫婦、子児連て来たり。  
電話にてしらせ、直二帰。高橋氏と晩食供にして帰。

十月十八日 己酉 月曜

朝、庭清めして、勤行も済し、課業例のし。堀田氏会日なから、少し気分あしくて不参す  
る。

\*例のし(例の如し)

十月十九日 庚戌 火曜 晴。

朝、庭清めして、勤行済て、火曜稽古する。

十月二十日 辛亥 水曜 晴。

朝の勤行済て、中天停車場ニ(衍)行。其内棚はし絢子さま御出同道、鶴見総持に行。  
此時、銀を供に連て、八時半発、総持寺ニテ村井孝子五十日忌日法会、十時読経済て、非  
時昼飯を供せられる。此本山も始めて参詣して、実に大伽羅、よくもかく迄に出来たりと  
感に堪たり。それより天王山中田氏え寄、前より約束も有て、隠居及菊子も大悦にて大も  
てなし、夕食を饗せられて、七時比帰。

\*中天停車場(中央停車場) \*棚はし絢子(棚橋絢子) \*総持(総持寺) \*大伽  
羅(藍)

十月二十一日 壬子 木曜 小雨。夜、大雨。

朝、庭清めして、勤行する。終日、揮毫ものス。来客、村井吉兵衛、忌明御礼に。

十月二十二日 癸丑 金曜 小雨。

朝、清め済て、勤行ス。課業例の如し。村井孝子遺物三品贈られる。午下三時過、表柳町  
自動車より出火、大さわき、所々より見舞人来る。十五分位にて沈火ス。三軒焼失ス。自  
動車五台共やけたりと。

\*さわき（騒ぎ） \*沈火（鎮火）

十月二十三日 甲寅 土曜 晴。  
朝、庭清め、勤行例の如し。

十月二十四日 乙卯 日曜 晴。

朝の勤行済て、此日梅若別会能見物ス。平野房江より待招にて、予、李子、すみ子、朝倉と四人、酒井伯より自動車にて行。終日面白く見物ス。道成寺、鐘入迄にて帰。高橋弘、小供と来る。夕飯を供にして、夜八時頃帰。

\*待招（招待） \*小供（子供）

十月二十五日 丙辰 月曜 晴。

朝、清め、勤行も済て、課業例の如し。

十月二十六日 丁巳 火曜 晴。

朝、庭清めして、勤行も済し、火曜の稽古する。十五夜の月清し。

十月二十七日 戊午 水曜 雨。

朝、勤行済て（以下、記述ナシ）。月食、雨にて分らず。

書をよす、木津跡見え、村井吉兵衛え、市の沢え、山梨小野え、朝鮮久岡え、栃木幸島え、信州掛川え、崎川玉琴え。

\*市の沢（市野沢）

十月二十八日 己未 木曜 晴。

朝、庭の清めして、勤行す。午下より観世え行、露木の入門をたのむ。それより姉小路延子さまの病を問ふ。北条彝子さま、道子さまも御出、井深、森永の医師相談のよし也。予ハ新田を問て帰。

十月二十九日 庚申 金曜 晴。

朝、清めして、勤行す。課業例の如し。揮毫ものす。来客、つのだ栄子。

\*つのだ栄子（角田栄子）

十月三十日 辛酉 土曜 晴。

朝八時、職員、生徒全部、講堂に参集。教育勅語三十年記念祝事、校長、勅語奉読、次、中島徳蔵氏、右二付講話アリ。構々々、已而畢。午下二時、東京府庁ニテ三十年以上教育ニ従事する者ニ表賞、知事阿部氏より右を渡さる。予、李子と也。四十六年と三十年也。

帰路、姉小路え寄。良子様、京都より御着也。

\*構々々(結構々々) \*表賞(表彰)

十月三十一日 壬戌 日曜 晴朗。

朝、勤行済て、八時、職員、生徒一同参会。天長節祝式を挙ス。李子、所労二付、余、勅語奉読ス。生徒、其外一同へ蒸菓子を出す。昼食ハ寄宿舎、御祝膳呼れる。午下二時、増田氏夫婦、自動車にて同行、外務大臣霞ヶ関離宮にて園遊会、本年を始とす。御苑も結構、来貧七千六百とか云、実に盛也。園遊会に限ると云。四時半退散、自動車にて増田氏と同じく帰。

\*外務大臣(外務大臣) \*来貧(来賓)

(十一月)

十一月一日 癸亥 月曜 晴。

朝の勤行済、八時より職員、生徒全部集会、遙拜式執行。先帝、皇后両陛下の御遺徳講話ありて退散。余、芝青松寺行。北野元峰師、永平寺え御出発二付、御見立申上ル。宮城前の奉祝門見事ニ出来、市中未曾有の盛況也。午下五時頃より雨ふり出し、天の此雨、浄雨といふへきか、人静の雨也。有難しとも有かたし。

十一月二日 甲子 火曜 晴。

朝、庭清めして、勤行奉仕す。河島道太郎氏、八枝子と同道にて来ル。愈八枝子、観世元滋え嫁入之事一切を依頼したり。右二付、早速観世え通知して、武田氏来りて種々懇談する。

十一月三日 乙丑 水曜 晴。

朝雨、十時頃より雨晴たり。明治神宮御選座祭も先々御滞なく済せられたり。種々の障りを懸念したりしか、何事もなくて、全く神護の故なり。夕景より白山下迄景況をみに行。賑はしき事也。午下、姉小路を問ふ。よし子様御不在にて、夫より新田え行、河島の事ニ付、相談する。

原町酒井伯え松魚、緋紋縮緬を祝ふ。

\*御選座祭(御遷座祭)

十一月四日 丙寅 木曜 晴。

朝、庭清めして、勤行奉仕す。大蔵経四巻にかゝる。来客、岡本よし子。東宮殿下、本日より御西下あらせられる。

十一月五日 丁卯 金曜 晴。

朝、庭清めして、勤行奉仕ス。課業例の如し。午下一時より地明会二行、本多師の御講話を聴聞して帰。此夜九時発車にて、修学旅行、伊勢より京都、桃山参拝。本多師より大蔵経五、六、二冊拝借。

十一月六日 戊辰 土曜 晴。

朝、勤行済て臥。玉枝還歴祝に絛地に和歌一首、松魚を、関谷英子結婚二付、松魚一箱、金扇に和歌を、祝ふ。

\*還歴(還暦)

十一月七日 己巳 日曜 晴。

朝、勤行済して、風邪氣二付、臥。玉枝還歴祝賀会、九段階行社にて執行。是には是非共出席せねばならんので、十一時、漸出席ス。桜花画全部陳列、来賓も大せいにて頗盛也。実に結構、是上なき事と云へし。種々演舌ありて、午餐会済て、生徒席画もあり。庭にて一同撮影ス。四時帰。万里芳房来る。

\*階行社(偕行社)

十一月八日 庚午 月曜 晴。

朝、勤行済て臥。来客、観世より武田氏、葉室伯、新田菊も。終日臥。

十一月九日 辛未 火曜 晴。

朝、勤行済て、火曜の稽古する。夜、玉枝御礼に来る。種々の咄しに時移りたり。十時過帰。万里伯来られたり。安田豊子結婚祝に、松魚一箱、支那紋縮緬一反を。

十一月十日 壬申 水曜 晴。

朝五時より起て勤行畢。修学旅行生一同、六時廿分、中天停車場に付ク。先、李子無事帰着する。此度の修学旅行ハ一点の雨もなく、頗好結果にて一同大悦也。来客、安田豊子、万里伯、井深氏。家の事二付(以下、記述ナシ)。

\*中天停車場(中央停車場)

十一月十一日 癸酉 木曜 雨。

朝、清め、勤行済て、午下三時半より築地精養軒に関谷英子と高崎正美氏との結婚披露会ニ出席ス。余興も沢山、すべて盛大に尽したり。九時過帰。

十一月十二日 甲戌 金曜 雨。

朝、勤行済て、課業例の如し。午下四時より帝国ホテルに酒井正（忠）正、秋子様御結婚御披露会ニ出席ス。余興、始、貞山講談、長唄、音蔵一流の連獅子、次、踊にて、食堂開け、盛なる事にてめて度相済せられたり。九時過帰。此日、安田豊子と（以下、記述ナシ）。

\*めて度（目出度）

十一月十三日 乙亥 土曜 晴。

朝、勤行済て、良子様御待うけの掃除、其外準備する。午下二時頃、京都姉小路良子様、大聖寺祖琉連て御出に相成、今度神宮御選座祭に付、召れて御上京にて、久々御拝顔を得て、何くれと御はなしに時も移り、御合物等さし上て、其内裏松千代子さまも御出にて、夜八時過迄。

\*御選座祭（御遷座祭）

十一月十四日 丙子 日曜 晴。

朝、勤行済て、揮毫ものス。

十一月十五日 丁丑 月曜 晴。

朝、勤行済て、課業例の如し。

十一月十六日 戊寅 火曜 晴。

朝、勤行済て、来客、斎藤仁子。火曜の稽古する。此夜、五軒町姉小路え良子様を伺ひて、長座して帰。金地色紙に蓬萊山を、たにさくに菊花を写して、短冊掛にて、三井氏え祝ふ。

\*たにさく（短冊）

十一月十七日 己卯 水曜 晴。

朝、勤行済て、十二時より白山大乘寺へと、良子様より仰にて、参詣する。此日ハ光明天皇、明治天皇、照憲皇太后、御法事御勤行ニ付、二位局、高倉寿子、千種典侍、園祥子、姉小路良子、御五方よりの御厳なる御法事に相奉りて、御読書、御焼香も仰せ付られて後、御非時もいたゞきて、種々御咄し共申上、はからす此結構なる御仏事に逢奉るとは何たる仕合かと、感泣之外無之候。四時帰。来客、志賀鉄千代、晩食を共にす。夜、雨。

\*光明天皇（孝明天皇） \*相奉りて（逢奉りて） \*御読書（御読経）

十一月十八日 庚辰 木曜 晴。

朝、勤行済て、種々仕度する。本日ハ三井高公と松平銀子との結婚披露会、三田綱町三井別邸ニテ。予、玉枝と同行ス。此邸ハ洋式にて奇麗、結構、言ふへきなし。庭園の広き、秋の錦を呈したる眺めもよし。所々にテブルを置いて、五六人ツゝに洋食種々をもち来る。

済て外側に行て、あらゆる遠き近き人々に逢て、種々の咄しなとして、旧をあたゝめるなと、極めて面白し。別に余興もなくて、二時半より四時迄にて畢る。予ハ三時退散す。帰途、日比谷の菊見て帰。此時、皇后陛下の御還啓を拝しまつる。

観世より河島八枝子の会見を申込て、俄に八枝子を李子連て、武田の宅にて会見済。

十一月十九日 辛巳 金曜 晴。 夜、雨。

朝の勤行畢る。課業例の如し。宮内大臣より観菊会招待状戴きて、実恐く置所をしらさる有かたさなから、桂緋袴にては拝観いたしかたくて、御断申上る。此夜七時半発にて御帰宅あらせられ(衍)るゝ二付、御見立に参る。良子様、高倉様とも御きけんよく御出發あらせられる。御見立の人々の多きに御盛也。

\*実恐く(実懼) \*御きけん(御機嫌)

十一月二十日 壬午 土曜 雨。 夜、雨甚し。

朝の勤行畢る。揮毫ものス。今日の観菊会御断申上る。此日、児玉縫子と宮内大臣夫人中村久爾子と御出にて、久々御物語などとして、御合のものを出す。御互に旧誼をあたゝめて、四時過御帰り也。土井田鶴子、明廿一日結婚二付、御祝として純地に和歌を純地に(衍)かきて、李子もち行く。

\*宮内大臣(宮内大臣)

十一月二十一日 癸未 日曜 晴。 午下四時、統一閣。

朝、勤行畢る。来客、井上花子、新田きく。午下三時より統一閣へ参詣する。御会式と改築落成祝と二而盛会也。御読経畢而、本多大僧正講話、熱弁感し入る。九時過済て帰。

十一月二十二日 甲申 月曜 晴。(衍)。

朝の勤行畢る。課業例の如し。午下一時より玉枝誘ふ二而同行、南葵文庫、徳川頼倫侯秋季大演奏会二行。本日、宮殿下、御息所殿下御同列、大かた成らせられる。演奏目、管弦楽五番アリ。実に当時ノ名人揃にて感心之至二候。洋州楽もこゝに至りては、先肉の味わいをしらすと云。畢而庭園天幕内に参集して、食事結構、済て帰、日暮。

\*しらす(知らず)

十一月二十三日 乙酉 火曜 陰。

朝、勤行済て、新嘗祭休業。正午より田中氏へ行て帰。

十一月二十四日 丙戌 水曜 雨。

朝、勤行済て(以下、記述ナシ)。

十一月二十五日 丁亥 木曜 晴。  
朝、勤行済で、佐々木氏に行。外に四、五人の来客もありて、大ゐに咄しに長座せり。昼比帰。

十一月二十六日 戊子 金曜  
朝、勤行済で、課業例の如し。

十一月二十七日 己丑 土曜 陰。

朝、勤行畢る。午下四時半より築地精養軒に行。土井田鶴子と三井高礼と結婚披露会、李子同伴、先々立派する賀君なる様に見受なり。早苗子大安心々と察したり。余興もありて、御客もレキ々々、大盛會也。九時頃帰。

\*立派する(立派なる) \*見受なり(見受たり) \*レキ々々(歴々)

十一月二十八日 庚寅 日曜 晴。

朝、勤行済で、棚はし絢子、宮中に召れて種々なる御下賜物もありて、其為に悦ひに行て、種々結構なる咄しも有て帰。姉小路に誕子の病を訪ふ。熱もさめて、先々快方、可悦。已而帰。来客、井上尼、入学の事二付。

\*棚はし絢子(棚橋絢子) \*誕子(延子)

十一月二十九日 辛卯 月曜 晴。

朝、勤行済で、課業例の如し。午下、箱書附八組する。日暮而、(空白)利子、母と共に御礼に来る。来月結婚すると云。

十一月三十日 壬辰 火曜 晴。陰。

朝、勤行済で、火曜稽古する。

(十二月)

十二月一日 癸巳 水曜 晴。けふのかく別の晴天也。

朝、早起して、生徒全部、明治神宮初参拝する。みはしに参集する。それより列を立て、大鳥居の大なるに三かゝえある、驚きたり。丁度御神選の上る時にて、御戸張も開かれて、よき時に逢奉る。かしこくも参拝して、つゝきて一同拝し畢る。このみ社の結構さ、明治天皇のみいつのますくこゝに顕れ給ふを拝し奉る。此広き御神苑のさまこそ、

明ほのゝ代々木の宮に詣てきてたゝ何となくなみた落ける

それより西の御門より志賀重昂氏を久々にて訪ふ。道迄、鉄千代の迎ひに來られたり。昼

餐も饗せられて、四時過迄。

\*けふ(今日) \*みはし(御橋) \*御神選(御神饌) \*み社(御社) \*  
みいつ(御稜威)

十二月二日 甲午 木曜 陰。

朝の勤行済て、さゝ木氏を問ふ。已而帰。終日、揮毫ものす。来客、富井博士の夫人。

\*さゝ木氏(佐々木氏)

十二月三日 乙未 金曜 雨。

朝の勤行済て、課業例の如し。綾の小路家政子危篤のよし。電話にてまた、一昨一日、江戸川の出火に岡田たけ一年生、焼死したるよし聞て、何たるいたましさ、かなしとも  
かなし。

綾小路家政子、本日午後七時三十分死去。

十二月四日 丙申 土曜 晴。

朝の勤行済て、綾小路え家政子暇乞に行。誠ニ其姿大ゐにやせおとろへて、平生と違ひ実あはれなるを見て、猶更いたましさ限りなく、枕辺にて提婆品をとなへて御回向申上て帰。  
朝、川島八枝来る。

十二月五日 丁酉 日曜 晴。

朝の勤行済。

十二月六日 戊戌 月曜 晴。

朝の勤行済、課業例の如し。午下一時より、予、李子と綾小路家政子の葬式に会ス。大久保ぬけ弁天町尼寺に会葬者も大勢にて盛也。焼香して帰。

\*大久保ぬけ弁天町尼寺(大久保抜弁天町尼寺)

十二月七日 己亥 火曜 晴。

朝、勤行済て、火曜稽古する。朝より初雪降出し、みる間に積る事、一寸、二寸、三寸と。牡丹雪見事なり。されとも遠方より稽古人続々来る。終日、降通したり。庭の月桂樹倒る、三度ニ及ぶ。夕方迄二四寸。

十二月八日 庚子 水曜 晴。

朝の勤行済て、続地書揮毫ス。多豊尾葬式、代理出ス。

十二月九日 辛丑 木曜 晴。

朝の勤行済で、佐々木氏え行、また棚橋絢子氏を問ふ。此度ハ結構ニ付、歌よみて銀地色紙、松魚五円券を贈る。暫時咄して帰。

十二月十日 壬寅 金曜 晴。

朝の勤行済で、課業にかゝる。朝より引続き午下三時迄、五年一ノ組勅題、翌（豎）詠草。来客、河島八枝、観世久、武田、水戸より後藤氏。

十二月十一日 癸卯 土曜 晴。

朝、勤行済で、課業如例。五年詠進うた書上る、朝より十二時過迄。

\*詠進うた（詠進歌）

十二月十二日 甲辰 日曜 晴。

朝、勤行済で、来客、松の、新田菊。午下一時より、予、李子と光円寺ニ参詣。故姉小路公義卿十七年、来年一月七日をくり上て、御法事ニ参拝ス。読経畢而、御供養物も有之候而、雨ふり出し、墓参して帰。

\*松の（松野）

十二月十三日 乙巳 月曜 晴。

朝、勤行済で、点付する。宮内省御内儀より明十四日朝十時、参内仰せられる。有難き事共也。

十二月十四日 丙午 火曜

朝九時より参内、北御車寄より参る。千種典侍、正親町典侍様御扱ニ而御機嫌奉伺、有感而作七絶、絛地ニ揮毫物献上する。陛下御感不斜、緋の板しめ一反、御目録、御人形、御袖入賜ル。外ニ白菜の大なる、みかんの大なるを拝領。昨年揮毫の画、御表装御出来上りにて拝見仰付られ、実に大立派にて画も位上りたり。御昼餐を賜はる。是又結構々々にて戴帰り、此御料理を職員一同え戴せる、御菓子も。

\*みかん（蜜柑）

（十二月十五〜十七日、記載ナシ）

十二月十八日 庚戌 土曜 雨。

堀田伯納会に参集する。四時帰。直ニ、予、李子と築地精養軒に平沢氏結婚披露会ニ行、九時頃帰。

（十二月十九〜二十六日、記載ナシ）

十二月二十七日 己未 月曜 晴。

掃除する。来客、鳥尾ちせ子、中むらよし子。書をよす、神戸藤田実子、同品川京子、北条つね子、栃木幸島氏、広島松島氏、宇和島にて志賀重昂氏え。

\*中むらよし子(中村よし子)

十二月二十八日 庚申 火曜

歌御会始披講陪聴願之趣、被聞召候ニ付、来十日午前九時三十分迄ニ通常服着用、出頭可有之、此段申入候也。

大正九年十二月廿八日

歌御会始奉行

勲六等跡見花蹊殿

右之通仰付られ候也。

(十二月二十九日、記載ナシ)

十二月三十日 壬戌 木曜 晴。

鹿児島市山下町内之浦氏、依頼もの返却ス。

(十二月三十一日、記載ナシ)